

12月 しいの実 みずたんぽぽ クラスだよ

12月は、乳児クラスのみんなで、クリスマスをお祝いすることができました。
小さい子どもたちにとって、難しいお話(パーファクト)ではありますが、じっくりと見て、保育者と一緒に讃美歌もうたっていました。
楽しく一緒にお祝いできたことを嬉しく思います。
もうすぐ、2022年が終わろうとしています。元気に新年を迎え、笑顔で会えることを楽しみにしています。よいお年をお迎えください。

しいの実ぐみ

★クリスマス制作★

12月は子どもたちからおうちの方へのクリスマスプレゼントを作りました。
子どもたちは、タンポ(雪割草やラッパの芯にスポンジをつけたもの)に絵の具をつけて、画用紙にトントンして模様をつけました。普段のあそびの中で鉄琴を叩いてあそぶことがあったので、同じ要領でタンポでトントンするかと思いきや...。実際に制作を始める前に、タンポに角虫をみると、タンポで床をトントンしたり、タンポの先を舐めてみたりしていたのですが、制作を始めると、子どもたちの中で何かか遠のけたのか、慣れないことのためか、緊張しているような姿がありました。しかし、保育者や友だちがしている様子を見たり、保育者の声かけだったり、段々と楽しくなっていく子どもたちでした。タンポその物も気に入り、トントンの後に、タンポの先を覗き込むようにして見ている姿もありました。子どもたちにとっては不思議だったのしょうね。最後は、もといたし、と涙おほまで楽しんでる子どももいました。その後、保育者が、クリスマスツリーに仕上げましたが、完成したプレゼントにも興味津々で、一人ずつ見せると、笑顔で喜び、嬉しそうにいました。小さいお友だちは、布に足型スタンプをしたものを、木の枝に吊るして飾りを作りました。手を使って何かをすることは、とても難しいですが、もと大きくなって、手か使えるようになったら、一緒に楽しみたいと思います。

★指先あそび★

シール貼りや、ポット落とし、円盤通しなどの指先を使ったあそびを楽しみました。何事にも興味津々な子どもたちは、保育者の動きを良く見ていて、何かの準備を始めると「なにをの？」とばかりに釘づけになります。シール貼りは、シールを手で持つと口に持っていく子どももいますが、月齢の大きい子どもは、スイスイ貼っています。片手で貼れないと判断すると、器用に両手を使って貼っています。
ポット落としは、片手でポットを持ち、もう片方で短い棒を落として楽しんでいます。
円盤通し(円盤の真ん中に穴が開いていて、その穴に棒を通していきま)では、慎重に微調整しながら、穴に棒を合わせて通している子どもたちです。指先を使うことは、脳が刺激を受け、脳の発達も促されます。これからも色々な指先を使ったあそびや、感触を楽しみたいと思います。

※一年間、ありがとうございました。よいお年をお迎えください。

★たんぽぽぐみ★
★クリスマス制作★
12月25日はイエス様がお生まれになった日です。たんぽぽ組の子どもたちもクリスマスの行事に、角虫クリスマスツリーを作りました。
まずは、柔らかい紙粘土に好きな色の絵の具を選んで混ぜ、手のひらや指の力を使って、こねます。最初からダイナミックに粘土に角虫の子どももいれば、「これなんだ？」といった表情で指先でちょんちょんと舐めてみる子ども、「おたんぽぽ」とおぼえてる子どもなど色々な様子がありました。色が混ざると次はお散歩で拾った木の枝を紙粘土に刺します。紙粘土にぐぐぐんと刺さる感触が楽しくて、みんなどんどん刺していました。刺す所がなくなってきたので、「もうおしまいする」と聞いても首を横に振ったり、「まだ」と言って集中して制作をする姿もありました。紙粘土が乾くと次は飾りつけです。ドンゴリや小さな松ぼっくりを好きな所に飾っていきます。一人ひとりに「おたんぽぽ」に何をかきつけたか？と考えるながら作っていました。
作ったクリスマスツリーには、たんぽぽ組のみんなの笑顔の写真も貼りました。完成したクリスマスツリーを「今日、持ち帰るよ」と一人ひとりに見せると、うれしそうなお子たち。お家の方が迎えに来てくれると早く見せたくて指さして伝える姿が可愛かったです。
乳児のクリスマスでお話をしたり、それたいよう組がする聖誕劇を見に行ったりして、たくさんクリスマスの雰囲気を感じることができました。
食事が大好きなたんぽぽ組の子どもたち。給食やおやつを食べる前に石けんで手洗いをすることも定着してきました。「給食、食べようか」と言う保育者の言葉を聞くと自分たちで手洗いの所へ集まってきました。
最近では椅子に座る姿勢を意識しています。足の裏をべたんと床に付けて背中を伸ばして食べられるよう声を掛けています。「足の裏をべたんとできるかな？」と声を掛けると両足を意識して床に付けようとする子どもたち。「みてみて」としっかり足の裏を床に付けている所を見せてくれます。
足の裏が床にべたんと付いて食事をするとし、ガリと噛むことができて噛む力が強くなります。逆に座る姿勢が崩れてしまうと、おどろき十分に発達せず歯並びが悪くなることや唾液の分泌が不十分でむし菌になりやすくなります。
最近ではダイニングテーブルで食事をさせている家庭も多いかと思いますが、子どもの成長は著しく足置き台を用意してもすぐに高さが変わってしまうので、定期的にチェックをして正しい姿勢で食事ができているかお家でも意識してみてください。保育園でも小さい頃からの積み重ねを大切にしていきたいと思っています。

★みずぐみ★
★2月はクリスマス制作★
11月から散歩に行くと集めたドンゴリや木の枝を使い、また、のりを使ったり、画用紙をちぎったりして指先を使って、ひとりひとり楽しんで作りました。最後の工程のドンゴリと木の棒をボンドで付けただけですが、小さなドンゴリと木の棒をボンドで付けると手にボンドがくっつくからと、ソッと付けてみる子どもや、ワクワクした表情で「ドンゴリとボンドを付けてのりとはまた違う感覚を楽しんでいる子どももいました。ドンゴリをポンと置くと「あー」と嬉しそうなお子たち。保育者を見ます。嬉しくて次々にドンゴリを付ける子ども、木の棒に実を付けてから飾りたい！と手元に集中する子ども等、本当に個性が出てどれも「その子どもらしい」素敵な作品になりました。

★憧れのお兄さん・お姉さん★
クリスマスが近づき、それたいようぐみがする聖誕劇のリハーサルを見に行きました。いつも交流で散歩に行く時とは違い、青森かに3階まで行くと衣装を着たお兄さんお姉さんが見えました。お姉ちゃんがいる子どもたちは自分のお姉ちゃんが見ると「あ、心」といさな声で、ドンゴリと身振りが弾み、小さく手を振ってとても嬉しそうなお子たち。姿が見られました。兄弟児がいない子どもたちもお友だちのお姉ちゃんに手を振ったり、身体の前で手を合わせてじっと見つめる姿が印象的でした。集中して見入った後、みずぐみの保育室に戻ると早速劇に出ていたイエスさまを作り、お包、こする子どもたちです。イエスさまを抱、こするマリアが印象的だったので、あ、「あ、あ、あ、あ、あ」と頭を振り、フスとした衣装も魅力的だ、たのび、と思います。こうやって憧れの気持ちから同じように「やってみよう」とあそびの発展へと繋がっていきます。憧れは子どもが前進する力になるので、これからも大切にしていきたいと思っています。
ジャンパーはワードのない重さや重いものでお預けします。ハンガーにかけるときは、前のジャンパーを脱いでかけておいて下さい。
今年1年ありがとうございました。来年元気に会えることを楽しみにしています。